

## 収蔵品展 「草木染の美・春」の展示概



山崎 青樹 《浅い春(白木蓮)》

今回の収蔵品展は「春」をテーマとし、桜などの花と鳥を題材とした草木画や鉛筆画、近現代の染織作家の着物をなどを展示します。

山崎青樹の草木画《鶯》をはじめ、瀧田吉一の鉛筆画《観音山の生き物たち(広報高崎連載)》から「オオヨシキリ」や「オナガ」などを展示します。近現代作家の着物としては、山崎青樹の「高麗雉」や篠崎節の「堤ざくら」などを、またハクモクレンをモチーフにした中川善子のタペストリー「“もの”の“聲”」を展示。近世の染織品としては、江戸時代の「越後上布・江戸武家小袖茶地帷子」など 27 点を展示します。

日本の染色文化の歴史を紹介する「王朝の彩色」のコーナーでは、延喜式記述を元に染めた反物から、「黄丹(おうに)」、「深滅紫(ふかきけしむら

さき)」、「浅緋(あさきあけ)」、「蒲萄(えびぞめ)」、「黄支子(きくちなし)」、「青白椽(あおしらつるばみ)」、「浅緑(あさきみどり)」、「深縹(ふかきはなだ)」、「浅縹(あさきはなだ)」、「白藍色(しらあいいろ)」、「深黄(ふかきき)」の 11 点を展示します。襲の色目(かさねのいろめ)からは、「薄萌木(うすもえぎ)」、「卯の花(うのはな)」の 2 組を展示します。

そして、黒袍(くろほう)と鈍色(にびいろ)の染布パネルは「黒袍を着用した立ち雛」とともに展示し、様々な「黒」をご覧ください。

さらに、さまざまな植物で染めた絹糸がご覧いただける「染糸引き出し」では、一つ一つの引き出しを開けてお楽しみください。

草木染の作品に囲まれ、草木染の色に浸ることができる空間を体感していただける展示です

会 期:令和 8 年 2 月 25 日(水曜日)～4 月 12 日(日曜日)  
会期中休園日:令和 8 年 3 月 2 日(月曜日)・9 日(月曜日)・16 日(月曜日)・23 日(月曜日)・30 日(月曜日)、4 月 6 日(月曜日)

会 場:高崎市染料植物園 染色工芸館

開館時間:午前 9 時～午後 4 時 30 分(最終入館は午後 4 時)

入 館 料:一般 100 円(80 円)、大高生 80 円(50 円)

( )内は 20 名以上の団体割引料金

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方および、その付き添いの方 1 名、65 歳以上の方、中学生以下の児童生徒は無料になります。

## お問い合わせ先

### 高崎市染料植物園

住所 〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町 2302-11

電話 027-328-6808